東洋美術大觀 十

Toyo Bijutsu Taikwan No 10

Blank Page Digitally Inserted

東洋美術大觀 十

750
T12p

東洋美術大觀第十册

目次

第四編　明

泉石筆赤壁橫江九皐唳月圖雙幅　一
邊文進筆花鳥圖雙幅　一
李一和筆花鳥圖三幅　一
黃翰筆綠柳文禽圖　一
林良筆鸜鵒圖　一
同筆水邊群鳥圖　一
呂紀筆花鳥圖三幅　二
同筆白鶴雪蕉圖　一
同筆白鷗、水鵝圖雙幅　三
王乾筆水邊群禽圖　一
陳子和筆瀑邊水禽圖　一
汪肇筆蘆雁圖　一
高陽筆枯木竹石圖　三
同筆山水圖卷　二
萬國禎筆睡鷗圖　二
陳嘉言筆水仙圖　一
柯士璜筆芭蕉圖　一
詹僖筆美人圖　二

仇英筆金谷圖及桃李園圖雙幅 一
同筆舟遊圖 一
同筆西園雅集圖卷 一
同筆風壑曳舟圖 一
同筆松下彈琴圖 一
同筆秋溪渡水圖 一
石銳筆買臣讀書圖 一
李士達筆連山落木圖 二
朱邦筆長爪梵志圖 一
何龍筆美人彈琴圖 一
趙芝筆樹下鬪拳圖 一
陳賢筆觀音圖 一
同筆羅漢圖 一
戴進筆山水圖雙幅 二
同筆山水圖二幅 一
山水圖三幅 一
李在筆山水圖 一
周文靖筆山水圖 一
劉俊筆春朝送別圖 一
王琰筆雪嶺風高圖 一
固臣筆北溟圖 一

同筆雪溪高隱圖　一三頁
唐寅筆青綠山水圖　二頁
吳偉筆山中高隱圖　二頁
張路筆漁父圖　二頁
前赤壁圖　二頁
朱端筆寒江獨釣圖　二頁
謝晉筆月下靜釣圖　二頁
笛聲松韵圖及漁樵問答圖　二頁
孫儀筆秋麓閒雲圖　二頁

朱明の胡元に代るや、再たび趙宋の遺緒を紹いで、朝廷復畫院の設あり。國初洪武の頃、周位山水の妙手を宮掖の畫壁に揮ひつ。成祖大廟を繪飾せしめむが爲に、天下の名工を徵して京に詣らしむ。邊文進、范暹等花鳥を以てし、郭純山水を以てして、共に永樂の内殿に供事せり。宣德の畫院には、謝環、商喜等あり。戴進、李在、周文靖等、亦共に仁智殿に直す。惜むらくは、文進の絶技、明代の第一手と稱せられて、而も讒口の爲に久しからずして野に下りて窮死しぬ。次いで林良、林郊父子、寫意派の妙技を院中に肆にす。良は内庭の供奉を以て、錦衣衛百戸の榮を辱うし、郊は詔を以て天下の畫工を取られし時、考第一の譽を得、錦衣鎭撫を授けられて武英殿に直せり。成化の頃、吳偉、呂紀、呂文英等、共に仁智殿に直し、張玘亦人物を以て名を弘治の畫院に占む。文英は孝宗の時指揮同知たり。呂紀と並び稱せられて、小呂と呼ばれき。正德の前後、王諤、朱端の二家亦共に仁智殿に直し、殊に王諤は今の馬遠と稱せらる。萬曆の初、王廷策畫院に入り、次いで顧炳内殿に供事す。沈應山畫院の秘亟たりしもこの頃か。その餘、侯鉞、嘉靖莊心賢等、傳神の妙手を以て、時に徵されて御容を寫しき。明代の院畫、亦盛を堪へたり。たゞ夫れ畫風は世と共に沿革して、復宋元と趣を同うせず。左にその變遷の概を叙すべし。

明代の山水畫には、南宋院體の末流に馬遠、夏珪等の派と、趙伯駒、李唐、劉松年等の派とに屬する者あり。又別に主として元季四大家の流を汲めるものあり。大別三種の系統あるを認む。馬夏の遺風は世と共に沿革して、復宋元と趣を同うせず。左にその變遷の概を叙すべし。

明代の山水畫には、南宋院體の末流に馬遠、夏珪等の派と、趙伯駒、李唐、劉松年等の派とに屬する者あり。又別に主として元季四大家の流を汲めるものあり。大別三種の系統あるを認む。馬夏の遺風は世と共に沿革して、復宋元と趣を同うせず。左にその變遷の概を叙すべし。

沈觀、戴進、倪端、李在、周文靖、周鼎、林廣、李在に學ぶ雷濟民、成性、范寬の風をも兼ぬ張翬、成化張乾、丁玉川、邵南、朱端、呂紀の風をも兼ぬ沈昭、大斧劈皴潘鳳、沈應山荊關の風をも兼ぬ等あり。然れども、是等諸家の中、吾人の遺作を觀たるものにて、眞に馬夏の遺風を認むるを得るは、周文靖あるに過ぎず。戴進、李在、王諤、門人盧鎭、宋婁等あり朱端等の作を觀るに、皆謂はゆる浙派に屬せり。その餘も想ふに皆然らむ。浙派の戴文進に始まれることは、畫傳の諸書に錄する所盡く一致せり。蓋し馬夏の末流文進に至りて一變し、その明代第一手と稱せられし程の手腕を以て、南宋の渾厚沈鬱の趣を化し、以て新に健拔勁銳の一體を成せしより、吳小仙、陳景初等を首として、天下の畫苑これが爲に風靡せられ、終に復古風を傳ふる者あらざるに至りしなり。文進、小仙の後、張路、吳珵、成化何適、王世祥、文進の婿戴泉、文進の子方鉞、汪質、天順仲昂、陳景初、謝賓擧、汪肇、夏芷、夏葵、芷の弟陳璣、葉澄、蔣嵩、宋臣、薛仁、蔣貴、李著、この後を江夏派と云ふ宋登春、王儀、邢國賢、俞存勝、小仙の甥鄧文明蔣嵩以下は小仙の後等あり。是等の外謝晉、何澄、宣德正統劉俊、吳亦儁支那畫傳に見えず等も、その我が國に存ずる遺作を觀れば、亦共にこの派に屬せり。我が雪舟の曾て畫法を學びし張有聲も、亦必や然らむ。浙派の多士誠に濟々たりと謂ふべし。又明畫の山水にして、作者の知るべからざる遺品にも、この派の筆に係るもの甚だ多し。その盛なりしこと察するに餘あり。文進の畫は尚郭熙、李唐等の長所をも兼ねて、末だ粗獷の弊あらず。縱橫の技巧、眞に一代の師表たる行家として歎賞するに足れり。惜い哉。末流の諸家徒に筆墨の健拔を弄び、殊に蔣嵩、

張平山等の如きは、その病最も甚しく、終に狂態邪學の譏を得たり。然れごも、その技術の自在なることは、到底渴筆の抹擦と、淡墨の渲染ごを以て、僅しめぬ。

均しく南宋の畫風は、馬遠、夏珪等といたく異なりて、極めて巧整なるのみならず、又好みて青用ゐたり。明に至りて、この派の末に冷謙、洪武周臣、唐寅、周臣に學ぶ、二年卒、五十四歳嘉靖周延祚、尤求、錢選の風をも兼ぬ石鋭、陳言、陳祼、張煥、沈碩等あり。浙派は多く水墨をせれど、この派は能く細麗なる青綠山水を作り、又或は金碧、界畫等を作り、或は兼ねて設色の人物に長ぜり。中に就いて、周東村、唐伯虎家は、共に浙派の戴文進ご並馳すべき明代第一流の高手にして、東村の門には伯虎の外、明代人物畫の泰斗と仰がるゝ仇英を出し、伯後には蕭琛、朱倫、錢貢、文徵明の風をも兼ぬ及僧日章等を出せり。我が國に傳存せる逸名の明畫青綠山水は、その數浙派の逸名遺品に讓らずして、大抵この派に屬せり。その用筆浙派に比すれば較ゝ細巧にして、往々輕輭なるものあり。頗る吳派に近き趣致あるを以てか、吳派の論これを嫌はず。世或は往々吳派と同視す。

唐の王維、五代の荆關、宋の董北苑、李營丘、巨然、二米、元の趙文敏、高房山、乃至元季四大家等の流を汲める明の山水畫は、謂はゆる吳派の以て標榜せるに文人士夫の畫を以てし、輞川以來裁構淳秀、みづから稱する。この派董其昌、沈顥以來、みづから呼ぶに南宗を以てし、みづから幽澹、慧燈不盡ご誇り、浙派及周臣、唐寅等の派を北宗ご名づけ、院體ご云ひ、風骨奇峭、揮掃燥硬、日に狐禪に就く、吾が曹の當に學ぶべき非ずと譏る。支那山水畫南北二宗の別は、實に董其昌等の首唱せる所にして、禪家の分宗に擬し、風土の夷險に本づけたるなり。唐以降の山水畫、變遷豈一二にして足らむや。强ひてこれを二大系統に分たむごするは、固よりその可なるを見ず。水墨を以て南宗の特色ごむには、北宗にも水墨を專にせるあり。裁構及設色の平淡野逸も、兩宗の俱有する所たり。南宗家が北宗の祖ご立つる二李將軍は、にして畫を能くし、北宗の畫家にも世々文人に乏しからず。南宗の作者にも、畫を以て業ごせる行家多し。されば南北の差異は、たゞ僅に過ぎず。兩宗の差別褒貶は、誠に吳浙二派軋轢の結果ご視るべきのみ。然れごも、文を尚ぶ支那に在りて、文人畫を以て標榜せる上を壓して、一世を傾倒せしかば、正德、嘉靖以後、この派最も隆興し、終に浙派をして漸く澌滅に傾かしめ、延いて清初南宗の盛運を致せり。

浙派の如く、こゝに略その作者を列擧し難し。沈、文、董、陳は即ちその代表者とも謂ふべき明正德八年卒、九十歳董其昌、崇禎九年卒、八十二歳陳繼儒崇禎十二年卒、八十二歳等踵を接して出で、名望翰墨壇に多くして、最も著名なるは、謝時臣、米萬鍾、王思任、盛茂燁、祁豸佳、李流芳、倪元璐、卞文瑜、王建章、張瑞圖等なり。その餘、蘇松派の趙左、雲間派の沈士充等、亦これを記せざるべからず。

宋元以上の人物畫は、道釋を以てその主と爲すこと雖も、明に至りては、その人物畫の主要なる地位を占むるもの歷史、風俗の圖れごも亦道釋の能手なきに非ず。蔣子成（永樂徵入）は觀音、佛像明代第一と稱せられ、阮福これに亞ぐこと謂はる。その餘、丁雲鵬、李麟、吳等あり。竝に羅漢、道釋の畫を以て稱せらる。王立本は梁楷を祖述し、陳遠、陳鳳、王鑑（嘉進士靖末）等龍眠の風を慕へり。歷史、風俗等の畫を代第一の大家と稱すべきは仇英なり。流麗纖巧なる明の人物畫の風は、蓋しこの人に依りて大成せしならむ。その系統を傳へ行山、程環、尤求、黃景星、段衡、周官、朱生及十洲の女杜陵女史等の外、畫傳の上に明ならずと雖も、孫承恩の美人畫の如きもこれに れ、又遺品（支那畫傳これを逸す）等の作も、正にこの派に屬せり。その配景の山水は、主として周臣、唐寅の風末に至りて、人物畫の大家に崔子忠、陳老蓮（清初にの亘る）の二家あり。時に南陳、北崔と稱せらる。蓋し仇英以後の妙手とす。人物畫中別にあり。前に述べたる侯鉞、莊心賢等に先だちて陶成あり。後又王直翁あり。曾鯨に至りて、傳神の妙を以てその名一世に高し。その畫は概して三派あり。一は宋以來の黃氏體を紹述せるもの、一は勾花點葉體、一は寫意派なり。黃氏體には邊文進、呂紀、林良二家の法を兼ねたるを殷宏とす。陳子和の畫風も亦然るもの、如し。黃壺石（永樂十進士）亦これに類す。竝に皆寫意派に屬せり。呂紀以來、その樹石頗る浙派の用筆に類す。蓋しその風化を受けたるなり。王乾の如きをその最も著きものとす。勾花點葉體は、周之冕を以て殆ごその代表者と視るべし。王弇洲の言に依りて、沈啓南の後、陸叔平に如く者なく、周之冕能く二子の長を撮りて以てこれを大成せるなり。想ふに黃氏體と寫意派又は吳派山水との融合に出で、以て清朝惲南田等の純沒骨體を生ずるに至る徑路ならむ。この餘、墨竹の夏仲昭、墨梅の王元章等も、亦有明畫史の一章を爲すに堪へたり。末流各〻少からず。今姑く省略に從ふ。

明の論畫は前にも言へる董其昌、沈顥等の南北兩宗差別褒貶の外、畫風の變遷を論じたるものには、王肯堂、王世貞の論畫ありて後、僧繇、六朝より唐の王維、張璪、畢宏、鄭虔一變、五代の荊關再變、宋の董李范三變、元の四大家四變ごし、世貞は、人物顧陸展鄭よりも道玄に變化し、山水二李一變、荊關董巨再變、李范三變、劉李馬夏四變、大癡、黃鶴五變、趙松雪六變ごを爲せり。董沈二家の分宗よりも觀察ごす。是等の外、明代の論畫は概ね煩細に渉り、陶宗儀の十三科、陳繼儒、汪珂玉、唐志契等の描法、皴法、樹法、點法等の歷史上極めて微に入れり。繪畫の論評に益あること少からず。亦これ論畫の一進歩なり。

泉石筆赤壁橫江、九皐唳月圖雙幅

京都　相國寺藏

絹本著色、各縱四尺九寸四分、橫二尺八寸

泉石字は文正。その傳詳ならずたゞこの書に依りて、その人あるを知るのみなり。士廉は皇明書畫史に見えたる沈士廉ならむか。書趣頗る古調にして元人の風あり。我が絕海中津國師が永和三年即ち明の洪武十年明より歸朝の時將來せしものなれば、泉石は元末明初の人なるべし。

（へるぷ）

明治廿五年五月廿四日印刷
明治廿五年五月廿七日発行

編輯兼発行者　江原素六
東京麹町区富士見町三丁目十番地

印刷者　小林鉄次郎
東京神田区表神保町十番地

印刷所　秀英舎
東京神田区表神保町十番地

発行所　東京専門学校出版部
東京牛込区馬場下町

この本は、国立国会図書館デジタルコレクションで公開しています。
https://dl.ndl.go.jp/

邊文進筆花鳥雙幅

絹本著色、各縦一尺二分五厘、横一尺二分

邊文進字は景昭、沙縣の人なり。永樂の間、召されて京師に至り、武英殿待詔を授けられ、宣德の間に至りて内殿に供事す。花の嬌笑、鳥の飛鳴、葉の反正蘊籍、たゞ鈎勒の宜しきを得たるのみならず、宋元以後殆ど一人と稱せられ、呂紀と名を齊しうす。人と爲り夷曠瀟落、博學にして詩を能くせり。本圖以てその妙技の一斑を觀るべく、又その畫風の宋の黄氏體の系統に屬するものなることを知るべきなり。

侯爵　細川護成君藏

慶應義塾大学法学部

傳語隴西遠景攸寫

李一和筆花鳥三幅對

侯爵細川護成君藏

絹本著色、各縦四尺二寸五分、横二尺五分

李一和は明清の畵傳に見えず。然れども、本圖を觀てこれを考ふるに、邊文進等と同一の流派に屬し、巧麗なる黄氏體を善くせれば、年代も亦二家と略相同じき人なるべし。而もその技巧二家に比して多く遜らず。亦これ明代有數の一妙手なり。

令 | 姓名 住所 電話

著者 姓名 住所 電話

発 | 令和 年 月 日 初版発行（ ）令和 年 月 日 第 版発行

この作品は、著作権法で保護されています。

黄翰筆綠柳文禽圖

侯爵　細川護成君藏

絹本墨畫、縱四尺五寸、横二尺八寸九分

黄翰字は汝申、永樂十年の進士なり、詩書を能くす今本圖を觀るに、その畫謂はゆる寫意派に屬し、筆墨頗る爽快にして、樹石に浙派の風を帶びたること、後出の王乾等に同じとす。

貴族雑誌

第二號 六十六分

明治二十六年五月廿日 印刷

明治二十六年五月廿五日 發行

編輯兼發行人 川邊淳次郎

東京市日本橋區四日市町廿四番地

印刷者 本橋惣五郎

東京市日本橋區四日市町廿四番地

發行所 貴族雑誌社

「本誌の記事を轉載せんとする諸君は豫め本社の承諾を得られんことを望む」

皇帝陛下より勲章に賜はりたる御紋章の圖

皇帝陛下より勲章に賜はりたる御紋章の圖

林良筆鷗鷺圖

絹本水墨、縱四尺五寸、橫二尺四寸六分

侯爵　徳川圀順君藏

同筆水邊群鳥圖

絹本著色、縱五尺四寸二分、橫二尺八寸四分

男爵　郷　純藏君藏

林良字は以善、廣東の人なり弘治の間、薦を以て錦衣指揮を授けられ、内庭に供奉し、仁智殿に直す。著色の花卉、翎毛精巧を極め、殊に水墨の禽鳥に妙なり。煙波出沒、鳧雁嘷唼、容與の態、頗る清澹にして、樹草遒勁宛も草書の如く、人及ぶ者なしと稱せらる。謂はゆる寫意派花鳥明代第一の大家なり。こゝに掲ぐる二圖以てその技風を鑒賞すべし。

こゝに掲ぐ「二圖」をご覽下さいまし。

「仙臺藩の學者が藩主の命を受けて、藩内の地形を實測して作つた地圖」

「藩主に獻上する爲めに作つた地圖」

「藩内の重要地點を網羅して作つた地圖」

「藩内の山川道路を精しく實測して作つた地圖」

「藩内の山川道路を精しく實測して作つた地圖」

林子平著　寛政六年刊本

三國通覽圖說

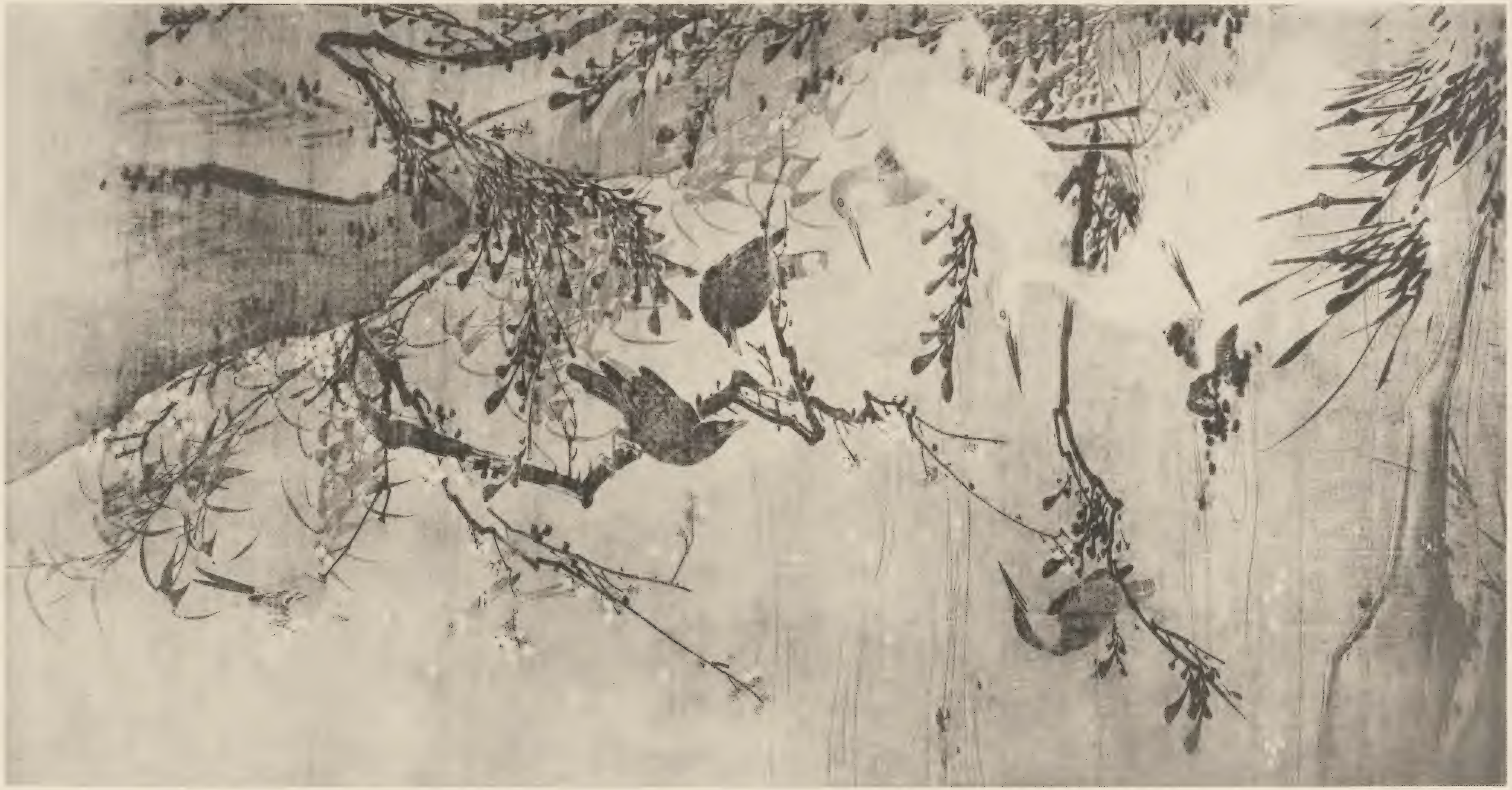
文化十四年丁丑刊本

三國通覽圖

林子平著　寛政六年刊本

三國通覽圖說

文化十四年丁丑刊本



呂紀筆花鳥圖三幅　侯爵細川護成君藏

絹本著色、各縱四尺八寸、橫二尺五寸九分

同筆白鶴雪蕉圖　同　伯爵松平直亮君藏

絹本著色、縱四尺四寸一分、橫二尺七寸

同筆白鷗、水鴟圖雙幅

絹本著色、各縱五尺六寸九分、橫二尺九寸九分

呂紀字は廷振、樂愚と號す。鄞の人なり。初め邊文進を學び、後唐宋諸家に倣ひて、花鳥の妙を極む。鳳鶴、孔翠、鴛鴦の屬、皆生意あり。雜ふるに花樹を以てし、穠郁燦として目を奪ふ。又山水、人物をも能くせり。宏治中林良と同じく徵されて御用監に入り、仁智殿に供事し、益〻造詣の精を極め、陞りて錦衣衛指揮に至る。制に應じて作る所の畫、多く意を立て〻進規す。孝宗これを稱して曰く、工に藝事を執りて以て諫むるは呂紀これありと。その蹟我が國に存ずるもの少なからず。こゝに揭ぐる所の中、最初の花鳥雙幅及白鶴雪蕉圖は、謂はゆる穠郁目を奪ふものにして、邊景昭と同じく、宋の黃氏體を紹述せるものなり。白鷗水鴟雙幅に至りては寫意派の妙を兼ねたるなり。雪蕉圖の外、共に欵識あり。竝に略信據すべきを見る。

幅廣

前同

同

同

王乾筆水邊群禽圖

絹本淡彩、縦四尺六寸六分、横二尺六寸六分

東京　小原重雄君藏

王乾字は一清、初め藏春と號し、又天峯と號す。臨海の人なり。輕墨淺彩を以て禽蟲花卉を作り、間〻山石林叢を作る。尤も寒塘野鳧泊泳朝暮の態に妙なりと稱せらる。本圖墨の妙を賞するに足る。壽風固より寫意派に屬すと雖も、用筆の趣頗る明代花鳥の寫意派と山水の浙派とは、同時の發展にして、その趣致彼此相類せり。王乾の如きはその殊に著きものとす。

陳子和筆瀑邊水禽圖

京都　東海庵藏

絹本淡彩、縱五尺八寸五分、橫三尺五寸四分

陳子和號は酒仙、浦城の人なり。人と爲り倜儻にして生産を事とせず。酒酣にして筆を縱ちて人物、山巖、花草、翎毛を寫す。俗格に隨はず。古木奇怪蒼潤。評する者吳偉、郭詡の間に在りと稱す。その技風の概これを本圖に觀るべし。

汪肇筆蘆雁圖

絹本淡彩、縦四尺七寸二分、横二尺九寸四分

侯爵　徳川圀順君藏

汪肇字は徳初、海雲と號す。休寧の人なり。人と爲り豪放不羈。山水、人物戴進、吳偉に出入し、翎毛、花卉みづから一家を成すと稱せらる。その畵風林良等の寫意派に屬し、技巧一斑を本圖に觀ることを得べし。

高陽筆枯木竹石圖

紙本淡彩、縦二尺八寸七分、横九寸八分

尾張小鈴谷　盛田久左衛門君藏

同筆山水圖巻

絹本淡彩

熊本　村井同吉君藏

高陽字は秋甫、四明の人なり。花鳥を能くし、筆意縦横、天眞燦爛たり。石を畫くこと極めて精しく、太湖、錦川、英石、蠟石の如き、皆形似に妙を得て、寫生の名手と稱せらるゝ事に因りて金陵に移り、改めて此に掲ぐる所、以てその花石と山水との兩科に於ける妙技を賞するに足る。

同建山水圖卷

本畫卷山水圖建築物人物等皆極精細而寺院樓閣之結構及山石之皴法樹木之點染均極工致其中水墨之濃淡遠近之分別尤為明顯全卷共分十二段每段各寫一景或山水或樓閣或人物或舟車或橋梁或村落或寺院或庵觀或平原或曠野或江河或湖海或風雨或晴霽或雪景或月夜或煙霞或雲霧或林木或竹石或花卉或禽鳥或走獸或魚蟲無所不備而每段之間又各有變化不相雷同誠為畫中之傑作也

本卷上鈐「乾隆御覽之寶」「嘉慶御覽之寶」「宣統鑑賞」「秘殿珠林」「石渠寶笈」「三希堂精鑑璽」「寶笈三編」「宜子孫」諸璽

本卷上有小楷題簽「同建山水圖卷」

本卷上有「秘殿珠林」「石渠寶笈」「三希堂精鑑璽」「寶笈三編」「宜子孫」諸璽

萬國禎筆睡鷗圖

絹本水墨、縦三尺二寸、横一尺三寸一分

京都　禪　寺藏

萬國禎字は伯文、萬曆末南海の貢生たり。水墨の花卉を善くし、竹を寫して玉局の遺法を得たり。又翎毛を工にすと稱せらる。今本圖を觀るに、その筆墨の情致頗る明末清初の山水に於ける南宗に類し、明代の寫意派花鳥雜畫の多くは浙派に類するに同じからず。輭雅の趣味較〻掬すべしとす。

陳嘉言筆 水仙圖

紙本水墨 縱二尺六寸三分、横一尺四寸四分

長崎 淺田重三郎君藏

陳嘉言字は孔彰、嘉興の人なり。寫意の花鳥、鬆秀愛すべし、本圖以てその一例と爲すに足る。

明治十年日本全國之人口ヲ調査ノ爲メ各縣ニ令シ戸口表ヲ製セシメ之ヲ内務省ニ集メ更ニ之ヲ合算シテ一表ヲ作リ以テ全國ノ人口ヲ知ルノ便ニ供セリ其ノ表ハ明治十一年ヨリ二十六年ニ至ル十六年間毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ第二十七年ヨリ三十三年ニ至ル七年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ第三十四年ヨリ四十四年ニ至ル十一年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ第四十五年ヨリ大正二年ニ至ル三年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ大正三年ヨリ同九年ニ至ル七年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ大正十年ヨリ同十四年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ大正十五年ヨリ昭和五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和六年ヨリ同十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和十一年ヨリ同十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和十六年ヨリ同二十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和二十一年ヨリ同二十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和二十六年ヨリ同三十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和三十一年ヨリ同三十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和三十六年ヨリ同四十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和四十一年ヨリ同四十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和四十六年ヨリ同五十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和五十一年ヨリ同五十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和五十六年ヨリ同六十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ昭和六十一年ヨリ同平成五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成六年ヨリ同十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成十一年ヨリ同十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成十六年ヨリ同二十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成二十一年ヨリ同二十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成二十六年ヨリ同三十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成三十一年ヨリ同三十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成三十六年ヨリ同四十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成四十一年ヨリ同四十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成四十六年ヨリ同五十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成五十一年ヨリ同五十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成五十六年ヨリ同六十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ平成六十一年ヨリ同令和五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和六年ヨリ同十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和十一年ヨリ同十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和十六年ヨリ同二十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和二十一年ヨリ同二十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和二十六年ヨリ同三十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和三十一年ヨリ同三十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和三十六年ヨリ同四十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和四十一年ヨリ同四十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和四十六年ヨリ同五十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和五十一年ヨリ同五十五年ニ至ル五年間ハ毎年一回ヲ以テ之ヲ製シ令和五十六年ヨリ同六十年ニ至ル五年間ハ隔年一回ヲ以テ之ヲ製シ令

瑤池清見落霞通滿籍和公舸水東吟叟
片帆捎疏雨來窓宿業鳧鷖棠下舊唐宮月依前歌
西清庶風雲指掌商輦漢江清夢曉未空

壬辰元日閒窗漫筆 陳嘉言

柯士瑛筆芭蕉圖

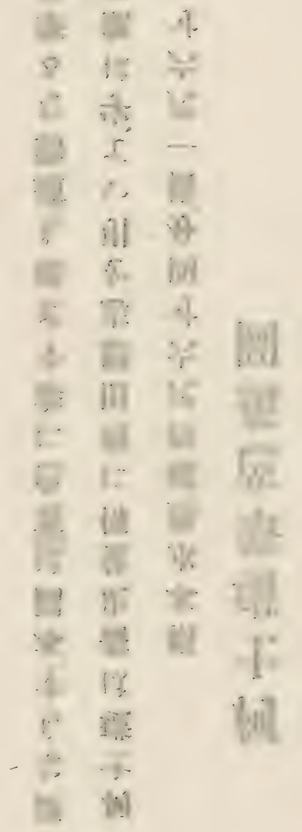
絹本水墨、縱四尺六寸四分、横一尺六寸三分

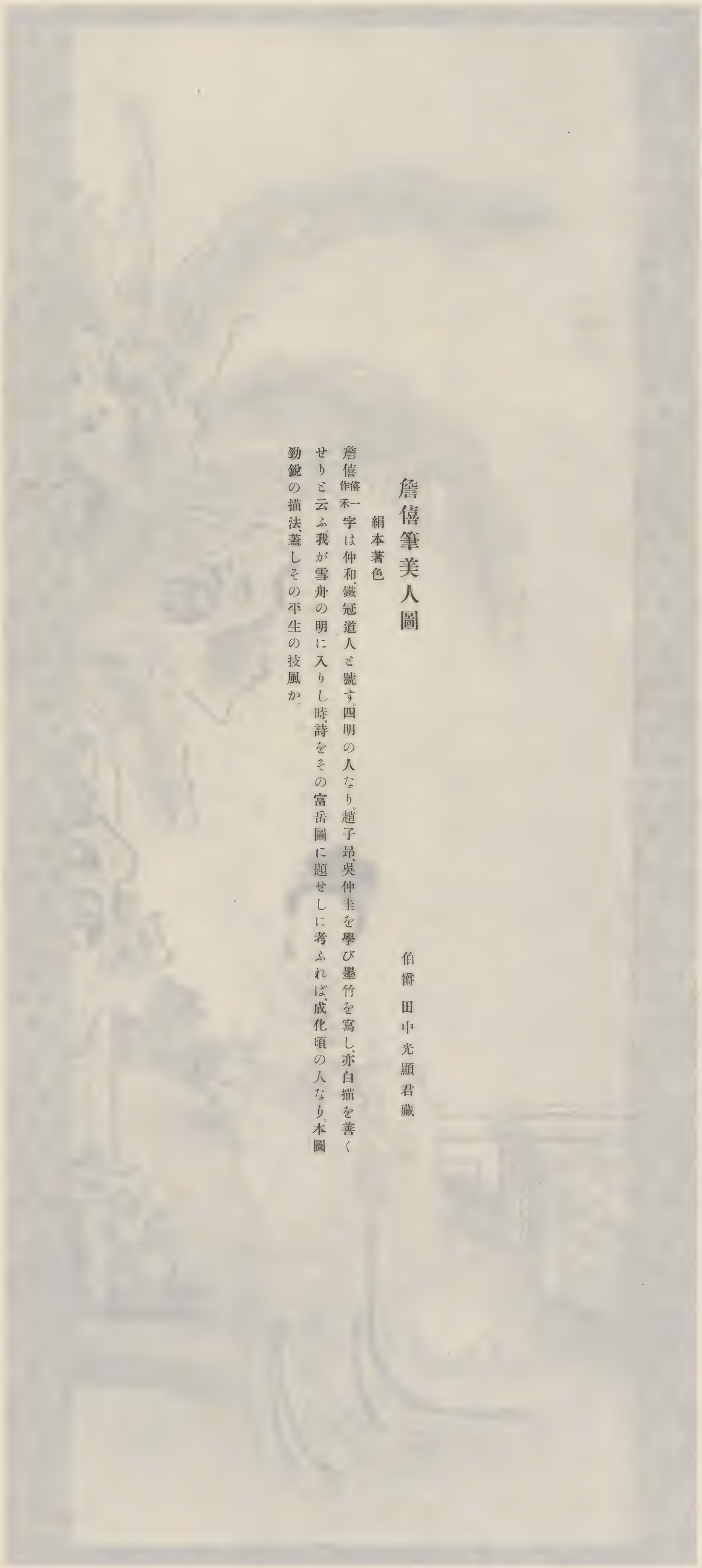
尾張　半田　中埜又左衛門君藏

柯士瑛は畫史彙傳に莆田縣志を引いて、字は無瑕、莆田の人、著色の花卉を善くすとある外、その傳詳ならず。本圖は著色に非ずと雖も、遒勁なる筆墨は以てこれを鑒賞することを得べし。

圖書館主恩

圖書館主恩　小學校の部　一等乙第十三號



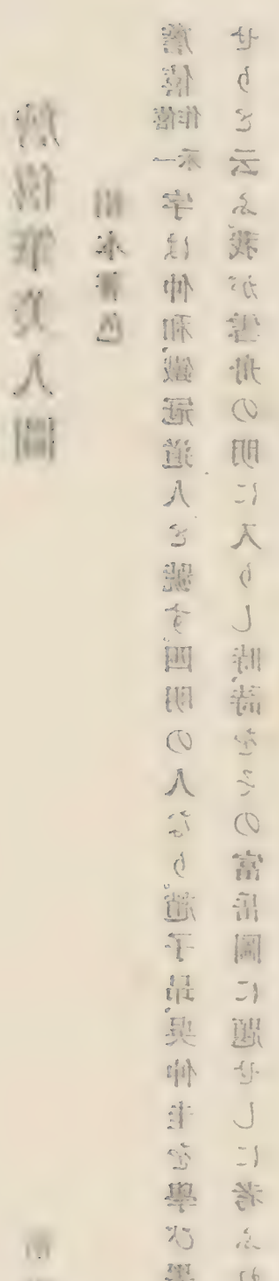


詹僖筆美人圖

絹本著色

詹僖（僖作禾一字）は仲和、鐵冠道人と號す。四明の人なり。趙子昂、吳仲圭を學び墨竹を寫し、亦白描を善くせりと云ふ。我が雪舟の明に入りし時、詩をその富岳圖に題せしに考ふれば、成化頃の人なり。本圖勁銳の描法、蓋しその平生の技風か。

伯爵　田中光顯君藏



仇英筆金谷圖及桃李園圖雙幅　絹本著色、各縱六尺八寸、横三尺九寸五分　京都知恩院藏

同筆舟遊圖　絹本著色、縱、横各七寸六分　侯爵黒田長成君藏

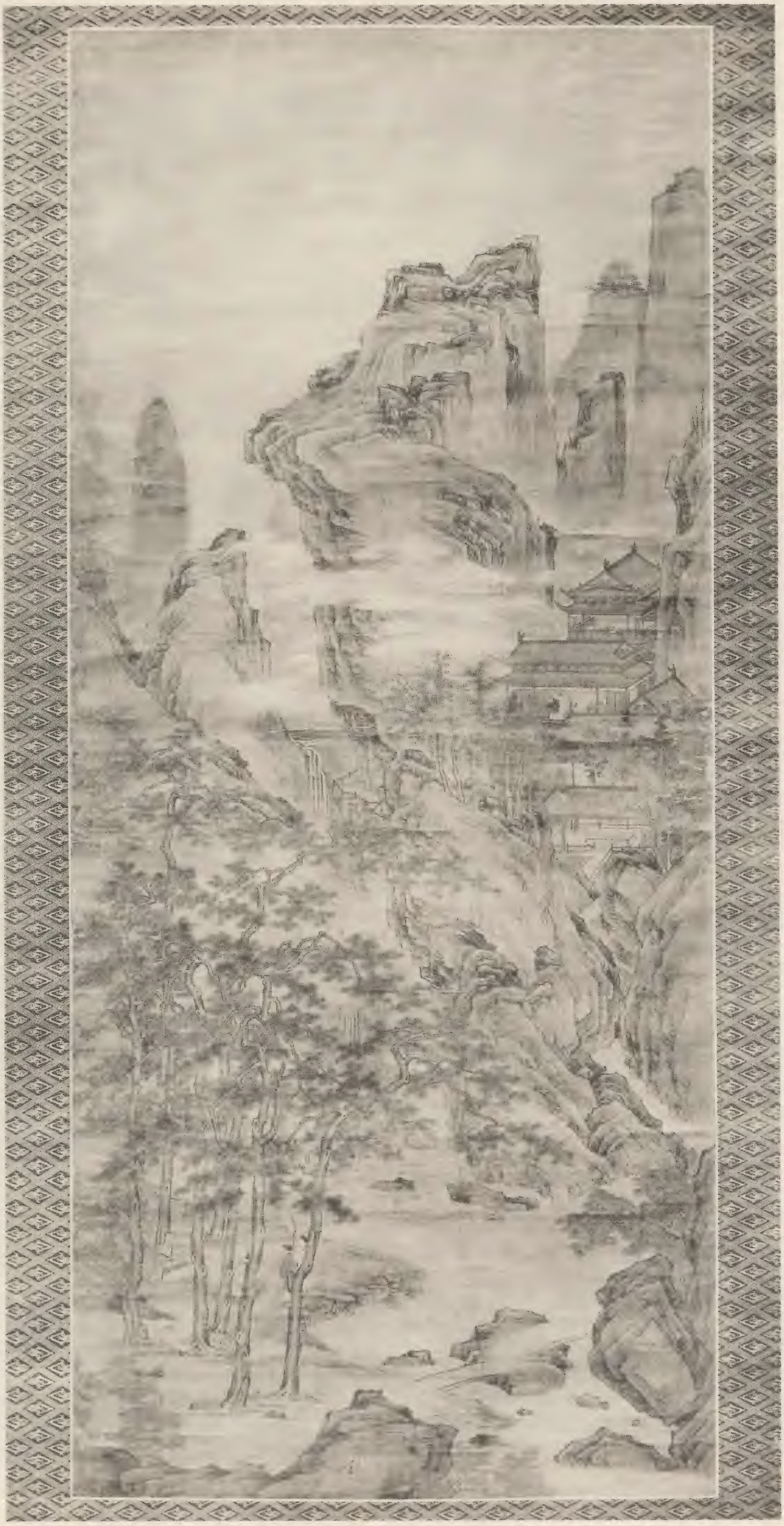
同筆西園雅集圖卷　絹本著色　仙臺士井林吉君藏

同筆風壑曳舟圖　紙本淡彩、縱一尺九寸、横一尺一寸四分　神戸西松喬君藏

同筆松下彈琴圖　絹本著色、縱四尺五寸、横一尺九寸九分　東京帝室博物館藏

同筆秋溪渡水圖　絹本著色、縱三尺八寸二分、横二尺七分　男爵高橋是清君藏

仇英字は實父、十洲と號す。太倉の人にして移りて吳郡に居る。畵を周東村に學ぶ。東村異としてこれを敎ふ。宋元の名筆臨摹せざるなく、人物、鳥獸、山水、樓觀、旗輦、車容の類、其昌これを評して、超伯駒の後身、文沈も亦未だその法を盡さずと言ひて神采生動し、明代工筆の泰斗たるに耻ぢず。松下彈琴圖は併せて傑と稱せらる。こゝに揭ぐる所、金谷桃李兩園及舟遊圖の外、竝に款識あり。纖密巧麗の技、眞に一代の奇、沈周に似て、吳派の妙を兼ねたるを賞するに足れり。



紅樹青山錦繡叢松頭
片白雲籠黏聲更帶
松風急為愛飛光入剡
東
杉年題

石鋭筆買臣讀書圖

京都　下村正太郎君藏

絹本淡彩縦二尺六寸五分、横一尺六寸七分

石鋭字は以明、錢塘の人なり、盛懋の法を得て、金碧山水、界畫樓臺、人物、賦はゆる北宗に屬して周臣、唐寅等と同じく、李唐、劉松年等の風を紹述し、而もその技極めて精妙の域に到れること、本圖に依りても想ひ見つべし。

李士達筆連山落木圖

絹本淡彩、縦四尺五寸八分、横二尺二寸五分

男爵　岩崎小彌太君藏

李士達號は仰槐、槐或作懷、呉の人なり。萬曆の間、新廓に隱居す。碧瞳秀腕、擧體仙せむと欲す。人物山水、氣韻天然と稱せらる。本圖山水の妙趣に兼ねて、山驛の人馬活動の巧致を賞すべし。萬曆四十七年の作とす。

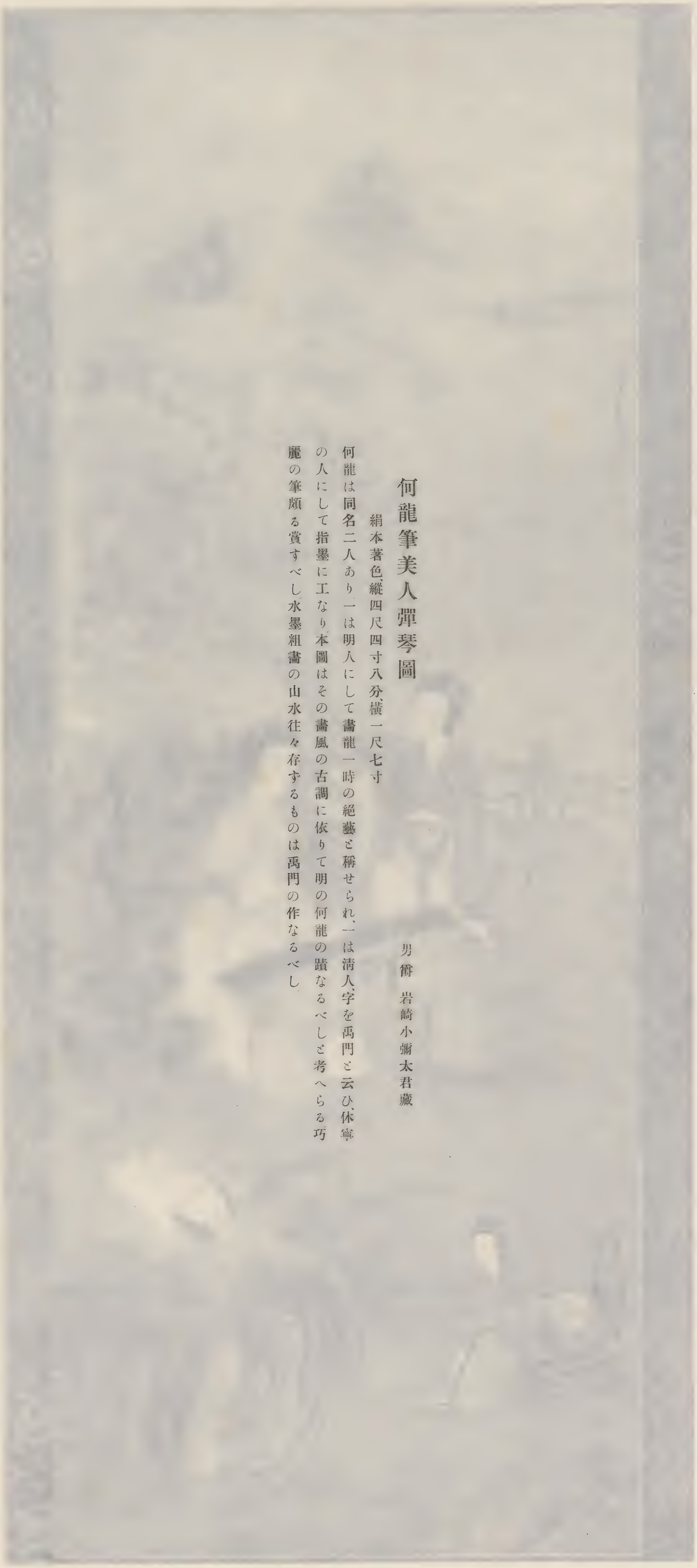
複製天然と錯さらぬ木版山水圖に象ゐた驚嘆の人の御愛顧を特に願ひ上げ奉ります
本店　東京市麹町區有樂町二丁目九番地
支店　大阪市東區北濱二丁目四番地
電話　本局　千代田　一〇〇番
　　　支局　北　一〇〇番
　　　支局　東　一〇〇番
　　　支局　南　一〇〇番
　　　支局　西

朱邦筆長爪梵志圖

絹本淡彩

熊本　村井同吉君藏

朱邦字は正之、九龍山樵と號し、又隱叟と稱す。山水、人物に長じ、鄭顛仙、張平山と髣髴たりと稱せらるゝその遺作極めて本邦に稀なり。この圖九州著名の尤品にして、以て朱邦の畫風を觀ることを得べし。畫題長爪梵志の事は阿含經に見ゆ。



何龍筆美人彈琴圖

絹本著色、縦四尺八分、横一尺七寸

男爵　岩崎小彌太君藏

何龍は同名二人あり、一は明人にして畫龍一時の絶藝と稱せられ、一は清人、字を禹門と云ひ、休寧の人にして指墨に工なり。本圖はその畫風の古調に依りて明の何龍の麗の筆頗る賞すべし、水墨粗畫の山水往々存ずるものは禹門の作なるべしと考へらる巧べし。

白鳥座X線源

白鳥座X線源（はくちょうざエックスせんげん）とは、白鳥座の方向に観測されるX線源のこと。

白鳥座X線源は、1965年に発見された最初のX線源である。

現在では、白鳥座X線源は、ブラックホール候補天体であると考えられている。

白鳥座X線源は、白鳥座の中心部にあり、太陽の約30倍の質量を持つ巨星と、太陽の約10倍の質量を持つブラックホールからなる連星系であると考えられている。

趙芝筆樹下鬪拳圖

絹本著色、縦一尺一寸一分、横二尺八寸一分

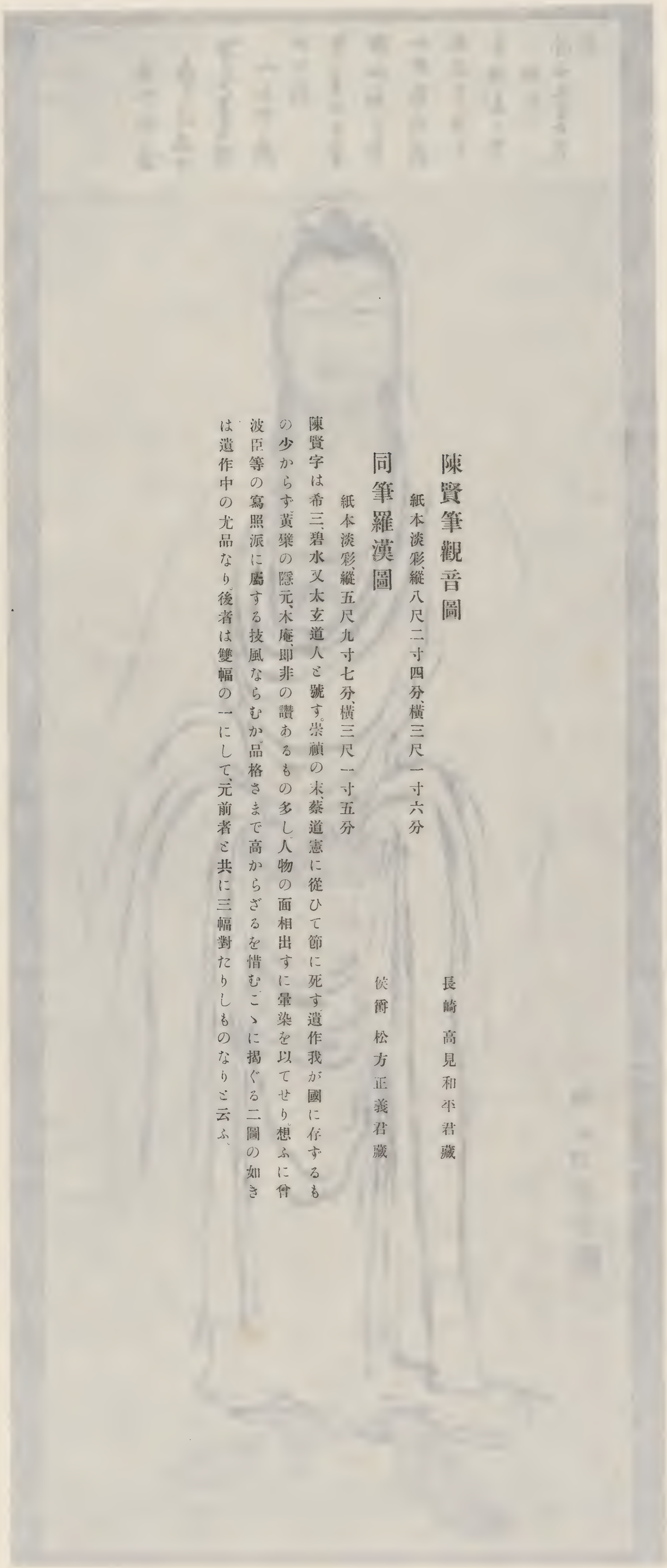
讃岐　琴陵光淵君藏

趙芝も亦その傳を詳にせず、然れども本圖を觀るに、その畫織巧流麗、亦これ仇英等の系統に出でたる明代の一妙手ならむ。

明治十一年十一月廿二日　出版御届
明治十一年十一月廿五日　発兌

著述兼出版人　静岡県平民　松林伯知

静岡県平民　松林伯知



陳賢筆觀音圖

紙本淡彩、縱八尺二寸四分、横三尺一寸六分

長崎 高見和平君藏

同筆羅漢圖

紙本淡彩、縱五尺九寸七分、横三尺一寸五分

侯爵 松方正義君藏

陳賢字は希三、碧水又太玄道人と號す。崇禎の末、蔡道憲に從ひて節に死すの少からず、黄檗の隱元、木庵、即非の讃あるもの多し、人物の面相出すに技風ならむか、品格さまで高からざるを惜むは遺作中の尤品なり、後者は雙幅の一にして、元前者と共に三幅對たりしものなりと云ふ、

觀世音菩薩
像讚曰
赤脚遠二下
善治惹帆淫
地強勝操隨
緣化被三千
界宜使蒼靈
仏溺濤
丙辰仲秋
書於
葉雲軒舍

戴進筆山水圖雙幅

絹本著色、各縱四尺七寸七分、横二尺六寸一分

長門萩　菊屋剛十郎君藏

同筆山水圖二幅　四季四幅中の二

絹本淡彩、各縱四尺四寸五分、横一尺七寸

伯爵　田中光顯君藏

戴進字は文進、靜庵又玉泉山人と號す。錢塘の人なり。宣德の時、秋江獨釣圖を進む。召し見て大いに用ゐられむとす。圖中の人物朱衣を著けたり。謝環これを讒して曰く。朱衣は朝服なり。これを漁獵に施すべけむやと。終に寢めむ。山水諸家の妙を得、人物、禽獸、花果倶に精緻を極め、墨竹、葡萄亦精絶、有明第一の行家、浙畫の第一流と稱せらる。又最も寫眞に巧なり。曾て金陵に至りし時、行李一傭の爲に擔ひ去られ、而も未だその姓名を知らざりしかば、乃ち紙筆を借り、その形を圖して衆傭に示し、終にこれを捕ふることを得たりと云ふ。進の子泉、字は淵進、又山水の家傳を傳存せるもの甚だ多し。こゝに掲ぐる所の如きは即ちその尤にして、殊に山水圖雙幅の如きは、規模雄麗にして健實、巧整の筆墨、能く南北二宗の長を兼ね、未だ後の浙派の如き厭ふべき粗獷の病あらず。眞に明代第一手の名に背かざるなり。

第四十二回配本　第四巻

宮澤賢治全集

四巻　詩Ⅱ　童話Ⅰ（注文の多い料理店）

昭和三十三年　月　日　印刷
昭和三十三年　月　日　発行

山水圖三幅對

絹本淡彩、各縱四尺六寸一分、横一尺六寸四分

本圖はその作者を明にせず、然れども畫風極めて戴文進に似て、未だ後浙派の流弊に墜ちず、健實卓落の技、多く文進に降らざる妙繪なり、

侯爵　細川護成君藏

寶章著〈參拜の栞〉文

本圖記述の主要建物を網羅せる外觀二重に表されたる簡

山水圖三幅對

紙四十六枚一張分一幅對四十六枚

圖

李在筆山水圖

絹本水墨　縱四尺六寸一分、横二尺七寸六分

東京　下條正雄君藏

李在字は以政、甫田の人なり。宣德の時、戴進と同じく仁智殿に直す。山水細潤の處郭熙を宗とし、豪放の處馬夏を宗とし、人物八面生動す。戴進よりして下一人と稱せられ、今本圖を觀るも、戴進の風化を受けしとおぼしき浙派中一家の技風、頗るその巧健を賞すべし、

今本圖は明治十一年の實測に基づき同十三年の改正を經たるものにして舊版に比し新に開通せる道路鐵道及び人口百戸以上の聚落を增補し且つ舊版に於ける誤謬を訂正したるものなり

縣廳所在地　郡役所所在地　村落

周文靖筆山水圖

絹本水墨縱二尺九寸三分横一尺三寸七分

金澤　横山隆輿君藏

周文靖は莆田の人なり。宣徳の間、陰陽訓術を以て徴されて仁智殿に直第一位を占め、大庾縣典史を授けられ、鴻臚序班を歴たり。山水夏珪、呉鎮牛馬倶に高致ありと稱せらる。本圖を觀るも、畫傳の錄する所の如く、能傳へたるを認むべし。日東傳存の明畫山水中、浙派の風に化せざるもの、獨り文靖あるを見るのみ。

図文転載について

令和　年　月　日作成

画像をクリックすると拡大表示されます。

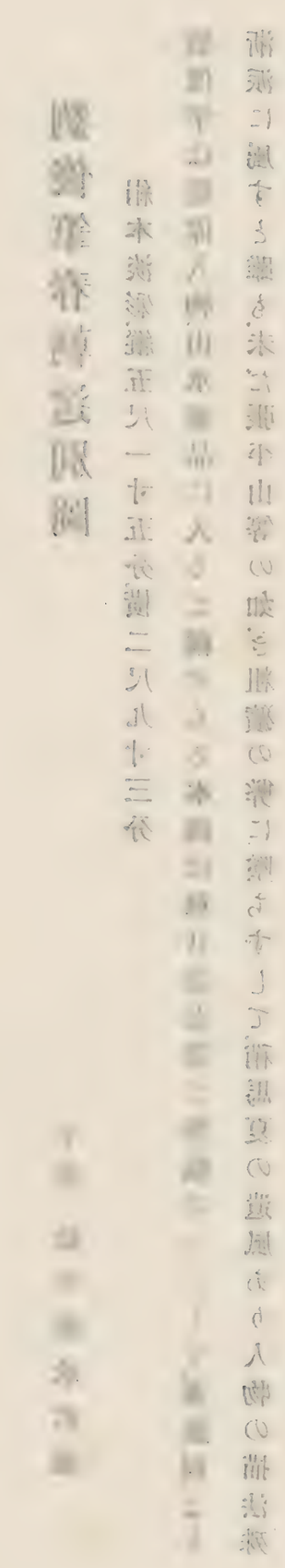
仁智殿五間之内

劉俊筆春朝送別圖

子爵 松平乘承君藏

絹本淡彩、縦五尺五分、横二尺九寸三分

劉俊字は廷偉、人物、山水能品に入ると稱せらる、本圖は秋日訪友圖と對幅の一にして、畵風固より浙派に屬すと雖も、未だ張平山等の如き粗獷の弊に墜ちずして、稍馬夏の遺風あり、人物の描法殊に嚴正なるを觀る



王諤筆雪嶺風高圖

絹本淡彩人、錦衣千戸を授けられ、繪事を以て仁智殿に供奉縦六尺二寸三分、横二尺二寸九分

侯爵 前田利爲君藏

王諤字は廷直、奉化の人、錦衣千戸を授けられ、繪事を以て仁智殿に供奉し、その書能品と稱せらる、蕭鳳を師として、力を唐宋の名家に肆にす。凡そ奇山怪石、古木驚湍の類、稱して今の馬遠と爲す。本圖を觀るも、その虚譽に非ずして、健拔の妙技を盡くその妙を得たり孝宗も小仙、平山等の如き浙派の名手なること眞に浙派の弊風は、既にその端を啓けるを認む。

出版物複写承諾書

著作者住所氏名

著作者住所氏名

出版物名

私儀右記出版物の下記著作物を貴社の出版物に掲載するに際しては、著作権法第二十一条から第二十八条までに規定する権利のうち、複製権、翻訳権、翻案権、上演権、演奏権、上映権、公衆送信権、口述権、展示権、頒布権、譲渡権、貸与権及び翻訳物又は翻案物の利用に関する権利を貴社に専有させることを承諾します。

記

一　著作物の表示

二　著作物の内容

三　著作物の発行の時期

四　著作物の発行の形態

五　著作物の発行の部数

六　著作物の発行の方法

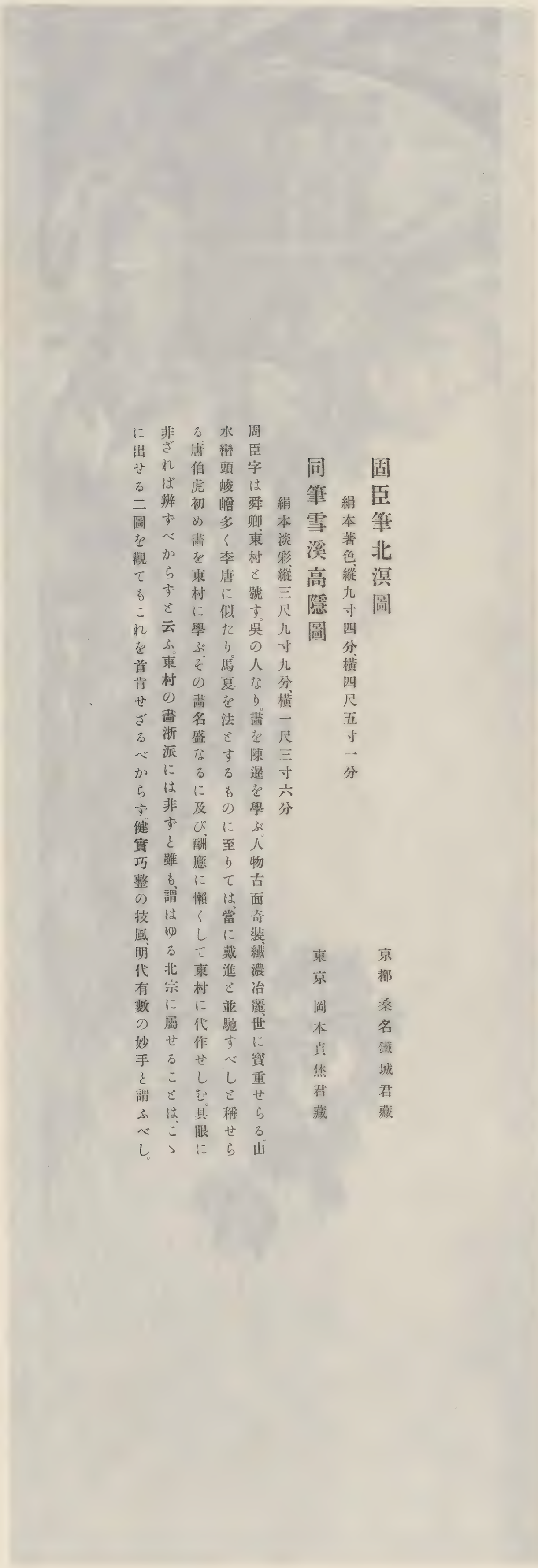
七　著作物の発行の地域

八　著作物の発行の期間

九　著作物の発行の条件

十　その他

雲嶺風高



固臣筆北溟圖

絹本著色、縱九寸四分、横四尺五寸一分　京都　桑名鐵城君藏

同筆雪溪高隱圖　東京　岡本貞烋君藏

絹本淡彩、縱三尺九寸九分、横一尺三寸六分

周臣字は舜卿、東村と號す。吳の人なり。畵を陳暹を學ぶ。人物古面奇裝、纖濃治麗、世に寶重せらる、山水巒頭峻嶒多く李唐に似たり。馬夏を法とするものに至りては、當に戴進と並馳すべしと稱せらる。唐伯虎初め畵を東村に學ぶ。その畵名盛なるに及び、酬應に懶くして東村に代作せしむ。眞眼に非ざれば辨ずべからずと云ふ。東村の畵浙派には非ずと雖も、謂はゆる北宗に屬せることは、こゝに出せる二圖を觀てもこれを首肯せざるべからず、健實巧整の技風、明代有數の妙手と謂ふべし。

唐寅筆青綠山水圖

絹本著色、縦三尺五寸八分。横一尺九寸八分

唐寅字は子畏又伯虎、六如と號す。吳の人なり。成化六年生る。幼より俊才あり歌に工なり。畵は周東村を師として青藍を出づ。李營丘、李唐、范寬、馬遠、夏珪、大皆これを善くし、畵品甚だ高し。弘治十一年、諸生を以て應天に擧げられ、ざる所なく、山水、人物、花鳥これを聘す。その反形を察し、佯狂して免れ歸り鄉試第一たり。寧王宸濠厚幣詩酒丹青に悠遊し、嘉靖二年壽五十四にして卒す。畵譜あり。世に行はる。有明一代の大作家、本圖未だ以てその面目を盡くすに足らずと雖も、巧整の彩筆、亦以てその妙技の一斑を觀るべし。

第四章　家と女

一　結婚

～ヤヨ　明ちゃまは言葉も見事の多弁家なりやの家族の一員の幕のように。

妻川各種法十五日ニシテ本書ノ一ニ当ル者ハ之ヲ一ニ当ル者ニ非ス。ヤヨ　ヤヨ　ヤヨ　

吳偉筆山中高隱圖 雙幅の一

子爵 青山忠允君藏

絹本淡彩、縦六尺二寸五分、横三尺四寸八分

吳偉字は次翁、小仙と號す。江夏の人なり。性簡直、氣岸ありて豪放なり。山水、人物蒼勁にして神品に入ると稱せらる。憲宗召して錦衣衛百戸を授けられ、錦衣鎮撫を授け、仁智殿に待詔たり。孝宗の時、錦衣に在りて、一老嫗に從ひて茗書狀元印を賜はり、綵緞數端を賞與せらる。曾て杏花村に游び、渇を醫せんとを追寫す。嫗の子見て大いに、老嫗已に世を謝せしかば、筆を捨いてその像を索む。明年復こゝを過ぎしに、紙上數處に印す。觀る者その意を測らず。忽ち筆を藏す。又曾て酒間戲に蓮房を取りて墨に濡らし、以て捕蟹圖を作る。最も神妙なりと云ふ。すず順三年に生れ、正德三年卒す。歲五十を縱ちて揮灑し、戴進に次いで浙派の大家なり。縦横壯拔の筆墨、その典型を本圖に觀るべし。その對幅の東郭山人鄒守益の題跋に「嘉靖乙未」とあるは畫後の追記ならむ。

名倉谷ヨシ氏聞書（一）

宮本常一

名倉谷ヨシ氏は明治三十年生れで、数え年八十歳の高齢である。氏は若い頃から家事のかたわら、機織りに精を出してきた。この聞書は、氏の織物歴と、名倉谷の女たちの暮らしぶりを、氏の語るままに記録したものである。

張路筆漁父圖

絹本水墨　縱四尺六寸九分、橫二尺三寸

張路字は天馳、平山と號す。大梁の人なり。序生を以て太學に遊ぶ。人物吳偉を學び、山水戴進の風あり。又花鳥を工にす。北人はその蹟を視ること拱璧の如くなりけれど、小粗獷の筆墨雅玩に入らずとて、聲價漸く減じ、甚しきは狂態邪學を以て至りて稍その弊を生ぜしなり。本圖以てその技風を觀るべし。

東京　江森盛孝君藏

会津藩当代名臣

幕末会津藩ニハ人物ガ多カッタ。

徳川幕府ノ末期ニ当リ、会津藩ハ京都守護職ヲ引受ケテ、非常ニ困難ナ立場ニ置カレタ。ソノ為ニ藩ノ人物ハ、ソノ困難ニ応ジテ、ソレゾレ異ッタ働キヲシタ。ソノ中デ、ソノ当時ノ藩ノ重役ニナッテ居タ人ノ中カラ、三人ノ名臣ヲ挙ゲテ見ヨウ。

ソノ三人ハ、西郷頼母、神保内蔵助、萱野権兵衛デアル。

西郷頼母ハ、家老デアッテ、藩ノ政治ヲ執ッテ居タ人デアル。神保内蔵助ハ、ソノ頃ノ藩ノ軍事ノ総督デアッテ、萱野権兵衛ハ、ソノ軍隊ノ中ノ一隊ノ隊長デアッタ。

前赤壁圖　後赤壁圖

絹本淡彩、縦五尺一寸五分、横二尺八寸九分

京都　妙心寺藏

本圖筆者を詳にせずと雖も、亦これ浙派の一名蹟なり、人物の描法及樹點、に何ぞ張平山に酷似せるや。仍りて今その後に附載す。

朱端筆寒江獨釣圖

絹本水墨、縱五尺八分、横三尺六寸

朱端字は克正、一樵と號す。海鹽の人なり。正徳中、書を以て仁智殿に直し、指揮俸を授けらる。山石馬遠を宗とし、人物王繼を慕ひ、墨竹夏景を師とす。曾て一樵圖書の印を賜はる。亦書を善くせり。本圖は款印ありて、その遺作中の佳品とす。正に浙派の妙手なり。

京都曼殊院藏

謝晉筆月下靜釣圖

絹本水墨、縦四尺五寸二分、横二尺三寸二分　竹林閑居圖と雙幅

子爵　大久保忠一君藏

謝晉（晋或作譜）字は孔昭、蘭亭生、深翠道人の號あり、呉の人なり繪事を以て京師に貢せらる、山水王蒙、趙原を師とし、踰丈の巨幅と雖も、頃刻乃ち就る、又詩を能くす蘭亭集あり、性耿介にして里人に疾まる本圖を觀るに、叔明の風はこれを認むることを得ずして、亦これ浙派に屬せり、この圖は對幅に竹林閑居圖あり共にその款記に「嘉靖辛酉夏日」四十年とあるを以て、畫傳に詳ならざる謝晉の年代を知ることを得

笛聲松韵圖及漁樵問答圖

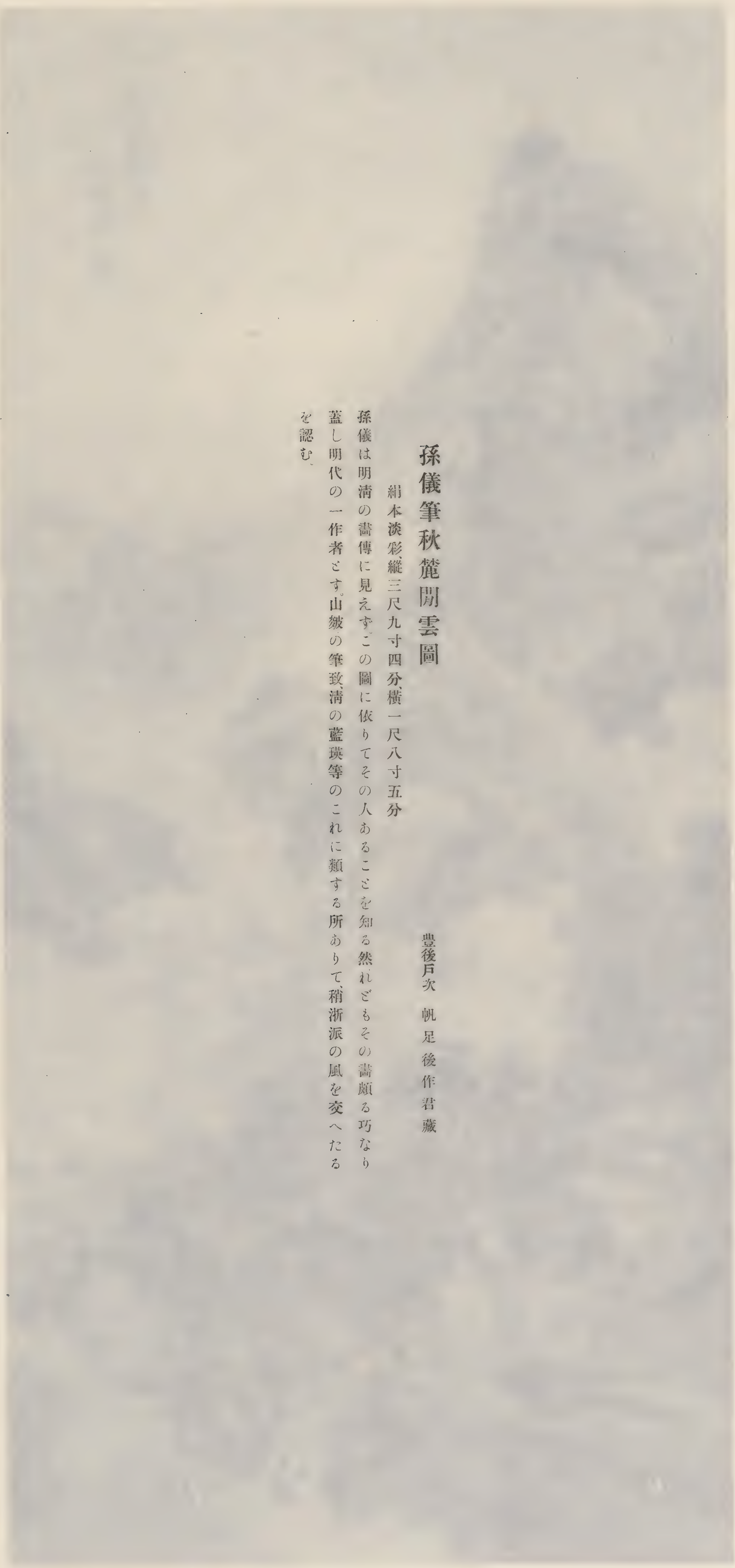
東京　六郎君藏

絹本淡彩、各縱六尺九寸八分、横三尺四寸三分

本品は徐霖の題賛あれど、畵は徐霖に非ざるべし所以者何と云ふに、徐霖は書家にして、畵は花卉、松竹、蕉石等を能くせしに過ぎず、由來文士の餘技にして、本圖の如き山水に於ける縱横自在の大手腕ありけむとは考へらるゝに出す所の二圖は四季山水四幅の中、熟〻これを觀るに、前出諸品の中、戴進及その次に編したる逸品の三幅の外、明代浙派諸蹟の中、殆ごこれに過ぎたるはあらず誠に有數の妙繪なり。

滿溪清真今
浪蕩風雲器
人識有匪可
右年徐霖

熊渔偶尔过孤村水岩山
高笑语温一句莫教闲地
日好今世事谨论称寒

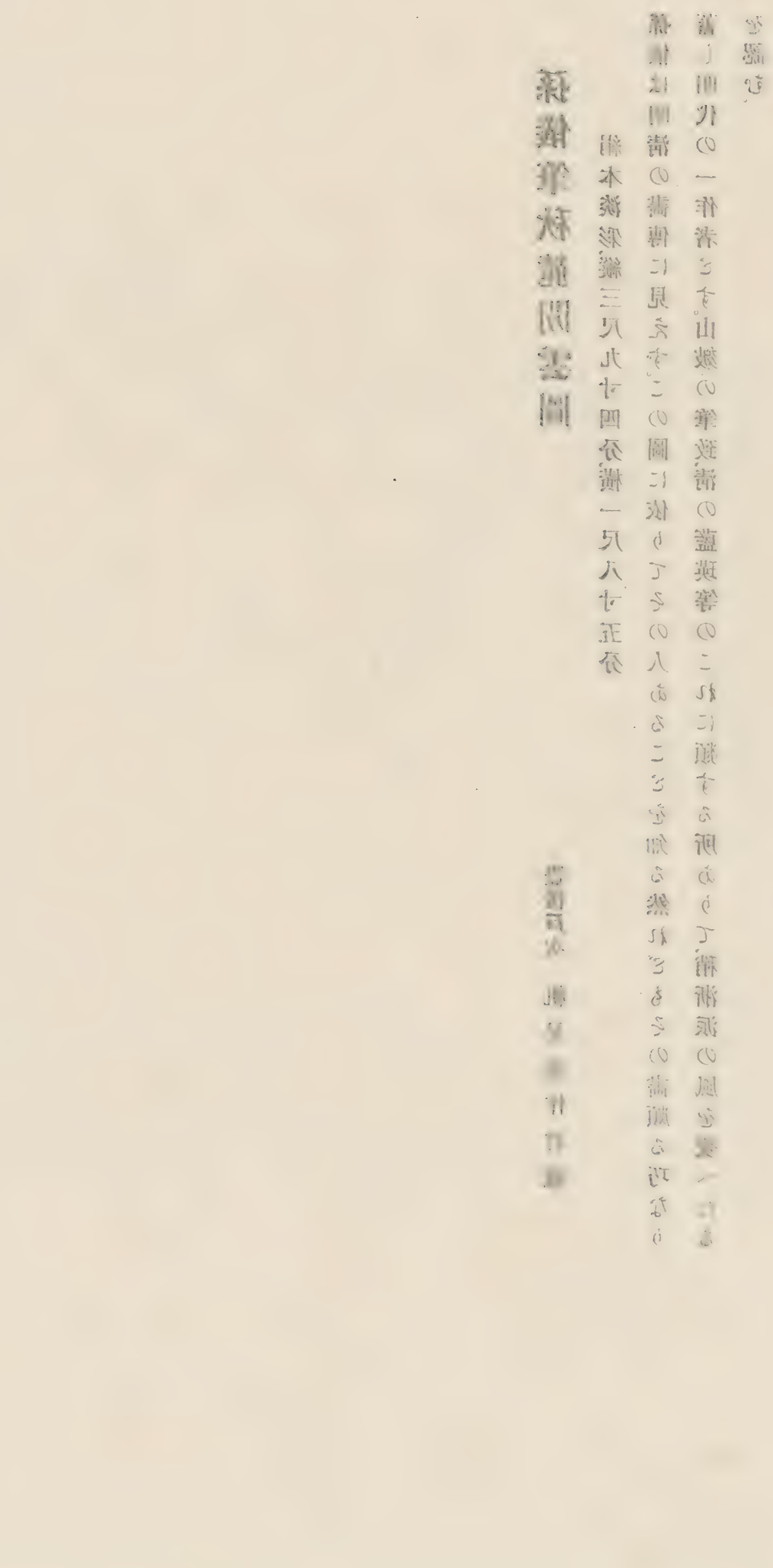


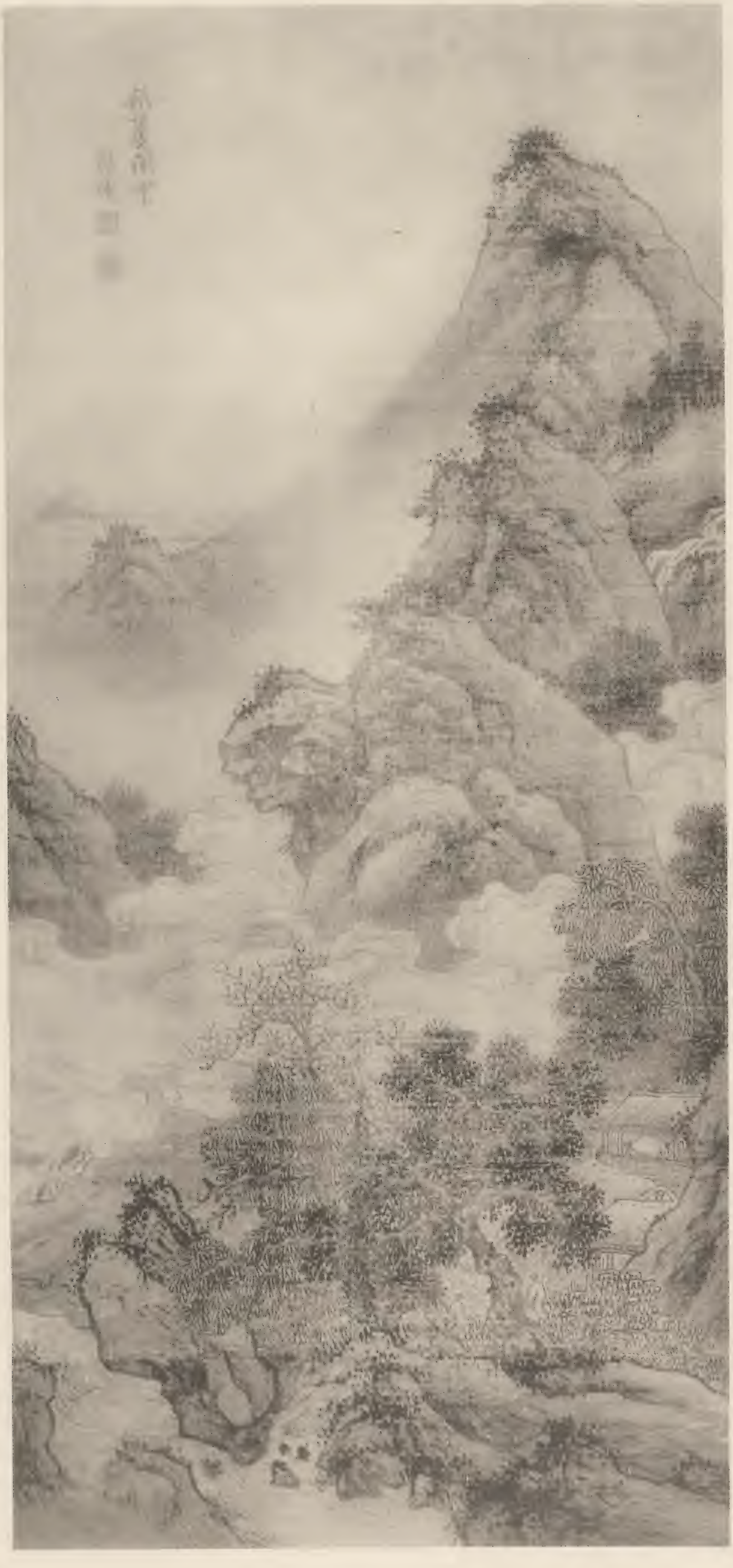
孫儀筆秋麓閒雲圖

絹本淡彩、縦三尺九寸四分、横一尺八寸五分

豊後戸次帆足後作君藏

孫儀は明清の畫傳に見えずこの圖に依りてその人あることを知る然れどもその畫頗る巧なり蓋し明代の一作者とす。山水の筆致、清の藍瑛等のこれに類する所ありて、稍浙派の風を交へたるを認む。





不許複製

（東洋美術大觀第十冊奥附）

明治四十三年十二月十八日　印刷
明治四十三年十二月二十日　發行

發編輯兼行者　東京市京橋區新肴町十三番地　株式會社審美書院代表者　田島志一

寫眞版印刷者　東京市京橋區新肴町十三番地　株式會社審美書院寫眞版部主任　中山音次郎

木版印刷者　東京市京橋區新肴町十三番地　株式會社審美書院木版部第一工場主任　三井藤三郎

活版印刷者　東京市京橋區新肴町十三番地　株式會社審美書院活版部主任　小松副一

印刷兼發行所　東京市京橋區新肴町十三番地　株式會社審美書院　電話新橋三〇五五番新橋三五三九番

書叢業農

農業叢書第三〇五種

中華民國三十三年一月重慶初版

中華民國三十三年一月重慶再版

農業叢書編審委員會

主任委員　沈宗瀚

委員　（以姓氏筆畫爲序）

王　毓　瑩　　朱　汝　珍

李　連　捷　　李　先　閏

沈　宗　瀚　　周　拱　辰

胡　昌　熾　　胡　先　驌

唐　啓　宇　　章　之　汪

程　萬　里　　趙　連　芳

趙　雅　書　　鄭　重　光

鍾　心　煊　　羅　清　生

顧　復　　顧　謙　吉

農業叢書　第三〇五種

農場會計

附農場合作

著作者　中國農村經濟研究所

發行人　王雲五

印刷所　商務印書館

發行所　商務印書館

各地商務印書館

版權所有　不准翻印

Blank Page Digitally Inserted

SMITHSONIAN INSTITUTION LIBRARIES
3 9088 01652 2658